

Think of Next

CSR報告書

Vol.8 2020

トピックス

NEXT 17 Targets

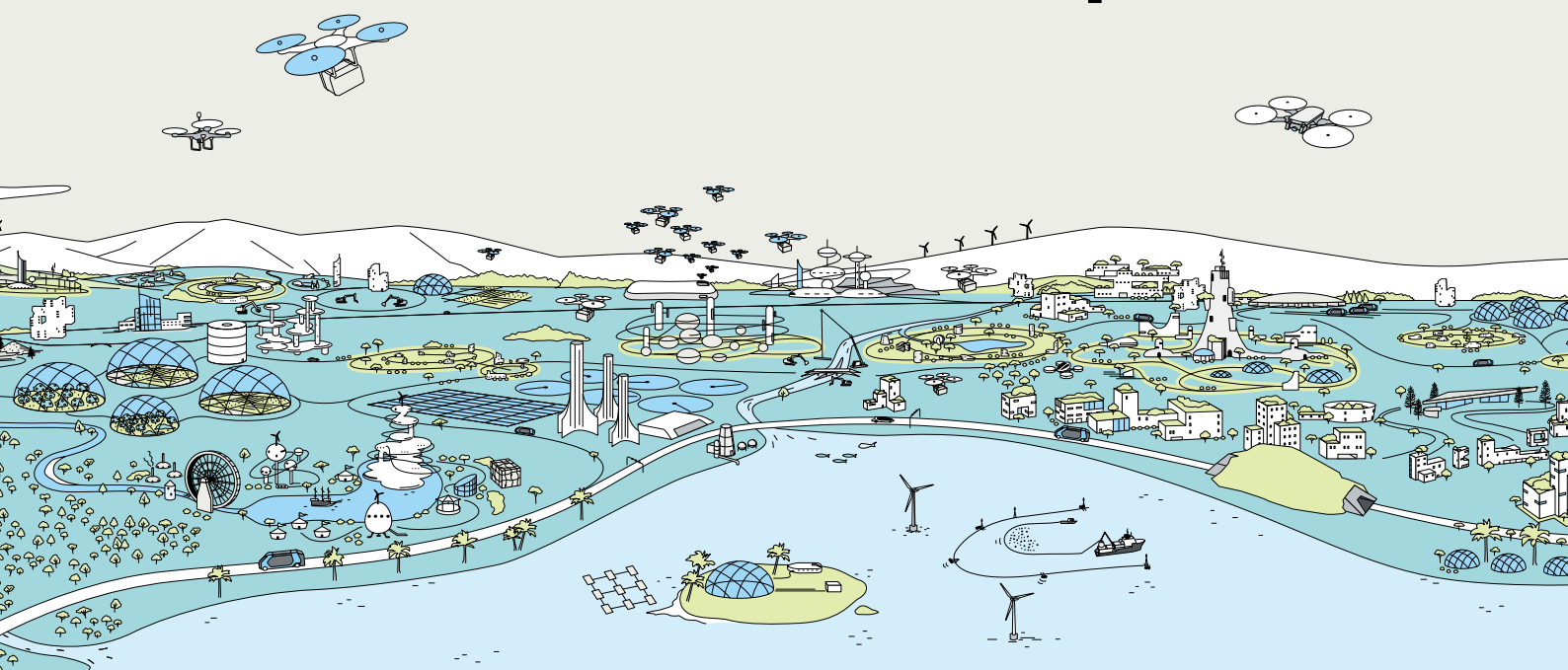
CSR7つの中核課題

特集

なぜ、いま変えるのか？



Chutoku
Group



企業理念

使命

「私たちは生活環境革命で人々を幸せにします」

基本姿勢

1. 私たちは、私たちを取り巻く全ての人々に誠実に接します
2. 私たちは、時代の風向きに敏感に反応し、いかなる時代が来ようとも存続します
3. 私たちは、共に地球に暮らす一員として、社会のために役立つ存在となります

行動指針

1. 明るく元気に
2. 迅速丁寧
3. 目配り気配り思いやり
4. ピンチはチャンスプラス思考

目指すポジションNo.1

- 社員の幸せNo.1
- お客様の満足No.1
- 社会に貢献No.1
- 未来の創造No.1

ISO26000 7つの中核課題



目次

特集 なぜいま変えるのか？	3
トピックス	8
NEXT 17 Targets	9
環境のために	12
地域社会とともに	13
お客様とともに	16
社員とともに	17
事故災害ゼロをめざして	18
第三者意見	19
公正な事業と組織運営のために	20
	21
	22
	23
	24
	25
	28
	29
	30

公正な事業慣行
労働慣行・人権
公正な事業慣行
公正な事業慣行
環境
コミュニティへの参画および
消費者課題

編集方針

中特グループのCSR / CSVの取り組み事業その他の活動をステークホルダーの皆様へご報告する様に編集しています。ホームページ等でも開示していますのであわせてご覧ください。作成にあたっては環境報告ガイドライン、ISO26000、及び国連持続可能な開発目標（SDGs）を参考にしました。

対象期間 2019年10月～2020年9月（一部対象期間外）

■中特グループ スローガン&ロゴマーク■

まちと未来をキレイにする仕事。



■グループ各社スローガン■

<中国特殊株式会社><株式会社藤井興業>
水まわりで、地域まわり。

<株式会社吉本興業>
スマイルアップ、クリーンアップ。

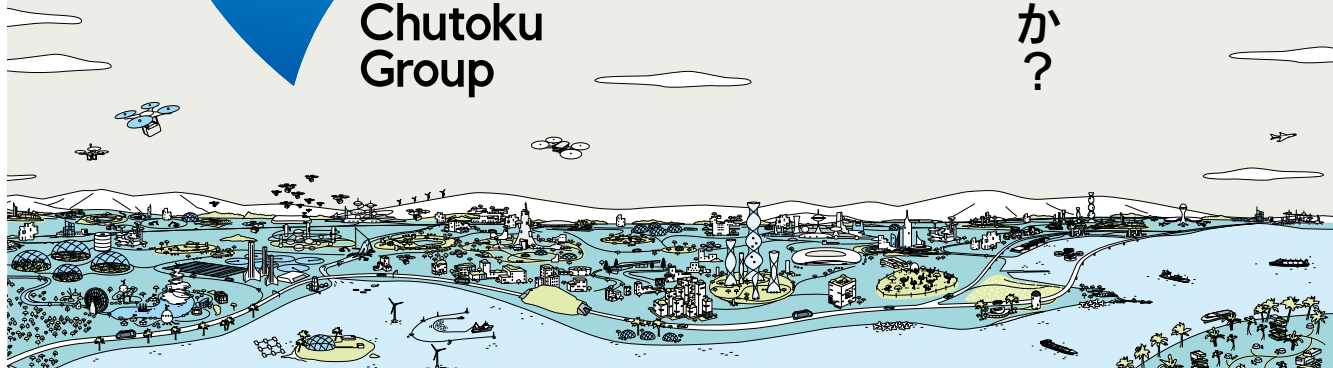
<株式会社リライフ>
捨てられたモノに、いのちを。

<株式会社ポータルハートサービス>
思い出も整理する。

本冊子で特集したように、今回、中特グループでは「リブランディング」を実施。
中特グループとしての姿勢、考え方を示すロゴおよびスローガンを新たに規定するとともに、
グループ各社についてもそれぞれスローガンを規定しました。
ここに至る経緯、こめられた思い、皆に抱いてほしい志など詳しくは次ページ以降をご覧ください。

特集

なぜ、いま変えるのか？



2020年9月、
私たち中特グループはロゴマークを一新しました。

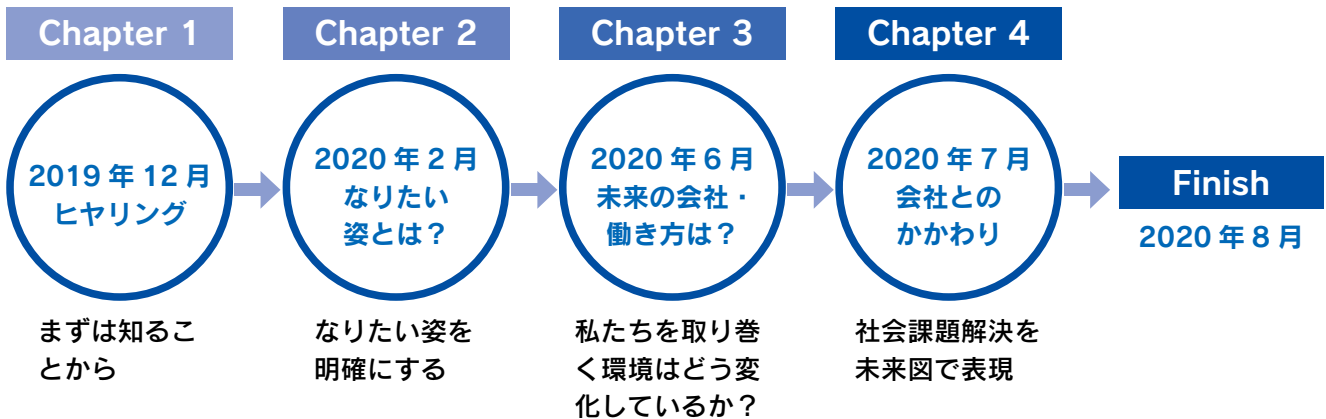
中特グループの仕事には地域の方の生活に密接に関わる、し尿汲み取りや浄化槽維持管理、ゴミステーションの回収などがあります。下水道のメンテナンスについても生活インフラ整備の上では欠かせない仕事です。また、企業や工場、建設現場から排出される産業廃棄物の処理やリサイクルも行っていますが、一般の方にはあまり馴染みがないかもしれません。最近では高齢社会に伴い遺品整理や生前整理などの需要も増え、県内全域に展開しております。

この様に私たちの仕事はどれも生活に深く関係していますが、地域の方にはこれら全ての仕事が行っている一つのグループ会社で行っていることが伝わっていないのが現状です。「これではせっかくなのグループの強みが活かせない、知られていないのはもったいない。」こう思ったのが、リブランディング（ブランドの再構築）のきっかけでした。

そうは言っても永年使用してきたロゴには愛着もあり、ある程度地元地域では認知されてきたこともあり、一新するのには実は大変勇気が伴うものでした。しかし、様々な事が大きく変化している今、グループの結束力を改めて高めるためにもリブランディングは必須だったのです。



中特グループ リブランディング・スケジュール



Chapter 1 : ヒヤリング

好きは最強

自らが理想としている「こう思われたい姿」と好きな相手から見た「こう思っている姿」が、一致していれば恋愛に進展するのと同じく、まずは目指す理想の会社像とお客さまや社員から好かれる愛される会社像を一致させる事が大切です。

お客さまに好きになってもらえば、価格競争に巻き込まれず選ばれる会社となります。そして、社員から愛される会社になれば、同じ価値観をもった優秀な社員が集まり、自分たちの仕事に誇りを持ち、それらが強みとなります。

では、その会社像＝「ブランド」はどの様にして作っていけば良いのでしょうか。



まずは己を知る事から

そもそも社員やお客さまは中特グループの事をどう思っているのでしょうか？

各社から2名ずつの代表がリブランディングメンバーとして参加しました。また、永年お取引を頂いているお客さま3社へも訪問しヒヤリングを実施しました。



【社員へのヒヤリング】

- ①提供価値（自社が選ばれる理由とは）
 - ・ 50年強の地域における高い信頼度
 - ・ 挨拶の徹底、笑顔で市民に接する姿勢
 - ・ CSR や地域貢献を積極的に行う企業
 - ・ コンプライアンス重視の取り組み
- ②組織体制（やりがい、面白さを感じる時・自社を選んで良かった事）
 - ・ お客さまから直接感謝の声を頂く喜び
 - ・ 他社に出来ない課題に応えられる強み
 - ・ 業界の変化に伴い新しい物を開発できる期待感
 - ・ チャレンジングな社風
- ③将来像（仕事上の夢、目標）
 - ・ 地球が壊れかけている今、もっとグローバルに地球規模での仕事をしたい
 - ・ 他の事業領域、ドメインを確立して事業展開出来れば良いと感じている
- ④ブランドパーソナリティ（中特ブランドのイメージ）
 - ・ 「e」は中特グループ、「Re」は吉本興業やPHSのマークのイメージがある
 - ・ 周南の方は中国特殊・吉本興業を知っていてもリライフが同じグループだと知らない
 - ・ 最近ではSDGsもあり持続可能な社会に貢献している意識が強い
 - ・ PHSはブルーのイメージ・eクリーンのヘルメットは濃いブルー
 - ・ 吉本興業はグリーン
 - ・ 会社のカラーは「水の色」「海の色」

※ PHS…ポータルハートサービスの略

【企業へのヒヤリング】

お客さま2社については20年、1社は創業以来50年以上のお付き合いとなります。

- ①提供価値（評価を頂いている点）
 - ・ 高い技術力でゼロエミッションに挑戦してくれる
 - ・ 迅速な対応で法令順守に貢献するパートナー
 - ・ 礼儀正しい社員など、人材・設備・ノウハウなどがあり安心して任せられる
 - ・ 地元の優良企業としての信頼感
- ②他社との比較（同サービスを他社にも発注されているかまたは、その違いとは）
 - ・ 頻りに訪問してくれるので関係性が構築できた
 - ・ 他社の嫌がる手間のかかる案件でも対応してくれる
 - ・ 会社全体でボランティアや啓蒙活動に積極的に参加している
 - ・ 歴史があり信頼と責任がある
- ③希望（今後期待している点）
 - ・ コンプライアンス重視はそのまま継続を
 - ・ 無事故を厳守し、安全教育も徹底して欲しい
 - ・ 地元企業としての飛躍への期待感
- ④その他
 - ・ 周南市民には中特グループの知名度は高い
 - ・ 街の課題解決に貢献
 - ・ リライフのカラーはブルーのイメージ
 - ・ 環境美化という面ではグリーンだが、女性が多いのでピンクのイメージ

特集 なぜ、いま変えるのか？

ヒヤリング結果

イメージカラーについては、驚くべきことに社員及びお客さまに尋ねたところ、圧倒的多数で「ブルー」という回答でした。

旧ロゴについては2種類あり、イメージが分散してしまっていたとはいえ、いずれもカラーは「グリーン」です。また、街を走る車両のラッピングはグリーンを意識していましたので、大変驚きました。

しかし、よく見るとユニフォームはグループ全社ともブルー系です。そうです。直接お客さまと接する社員は、皆ブルー系のユニフォームを着用していた事に気がきました。改めて社員、人、私たち一人ひとりの影響力は大変大きいものがあることにも気がきました。

この様に、自分たちが思っている事と周りの方が感じる印象には大きな隔たりがありました。



“Think of Next”
CHUTOKU GROUP



(旧ロゴ)



Chapter 2 : なりたい姿とは？

なりたい姿を明確にする

ブランド土台作りの第一歩「なりたい姿を明確にする」ために、リブランディングメンバーが集まりワークショップを実施しました。各社に分かれ、各々が熱い想いを語りました。

①どう思われたいか？

- ・生活関連、廃棄物のお困りごとは中特グループに相談すれば解決
- ・業界で一番先に思い浮かぶ、頼られる存在に
- ・明るく開放的な雰囲気の中、誠実に丁寧な仕事を心を込めてお役に立てる会社
- ・街の環境を守る存在として地域になくてはならない会社

②自社の特徴は？

- ・幅広い事業をワンストップで行う
- ・廃棄物を廃棄物でリサイクル
- ・永年続けてきたため地元の信用が厚い

③接触ポイントはどの様なものがありますか？

- ・社員の働いている姿や街を走る車両など
- ・環境出前授業・終活セミナーなどの啓蒙活動
- ・街のごみ拾いなどのボランティア活動
- ・CM・メディアやCSR 報告書などの広報物・WEB など

④一貫性はありますか？

- ・会社でバラバラ。Re ハートとe が混在
- ・各社の車両の色が一貫性を欠いている



Chapter 3 : 未来の会社とは、未来の働き方とは？

これから、私たちを取り巻く環境や仕事、働き方はどの様に変化していくのでしょうか。皆が真剣に取り組み、活発な意見が飛び交いました。



①仕事や暮らしはどう変化していくか

- ・気候変動による災害対応が増加していく
- ・経年劣化したインフラの整備が必要となり、スクラップ&ビルドが加速する
- ・人口減少によりゴミも減少。空き家は増加の一途
- ・人との関係が希薄になり、お客さまとの対面での話が貴重になる
- ・リサイクルやエコが“カッコいい”の価値観がさらに進み、判断基準となる

②未来の働き方とは？

- ・ICTが定着し各現場にはプログラムの管理者のみが対応する
- ・AIによる効率化された業務が一般的になる
- ・災害や感染症で打撃を受けない体制が作られている
- ・地域コミュニティや行政、他社との協働で地球の課題を解決している
- ・テレワーク、フレックスタイム勤務が当たり前になっている

Chapter 4 : 社会課題をどう解決するか？

リブランディングミーティング最終回は、参加メンバーの未来イメージがかなり明らかになってきました。社会課題解決のため、これから私たちは何をすべきなのでしょうか。

人口減少・少子高齢化、生産労働人口減・人材難、過疎化、空き家問題、インフラの老朽化、新型ウイルス・感染症、地球温暖化、自然災害、廃棄責任、海洋ごみなど、数々の社会課題が私たちを取り巻いています。これらを解決するため、未来を考える時に重要なキーワードがどんどん明確になってきました。



特集 なぜ、いま変えるのか？

【3R】 Reduce Reuse Recycle (発生抑制・再利用・再生利用)

【再生】 Recover Regeneration Reappear (回復する・復活・再現する)

【再製品化】 Remake Reproduction Recreate (作り直す・複製する・再構築)

【建築】 Rebuild Reform Renovation (再建・改革・改築)

【浄化】 Remove Return (移転・戻る)

【想い】 Remember (思い出す)

【余暇】 Recreation Refresh Relax Relief (気晴らし・緩和する・安心する)

【Work】 Rework (再処理)

Resource (提供する)

Responsibility (責任)

Revolution! (革命!) 『生活環境革命で人々を幸せにする』



「Re」は社会課題を解決し、未来を考えるキーワードであると同時に私たちグループすべての仕事に関わっている重要なワードであることが分かりました。

私たちはこれから未来に向け、エネルギー事業、海洋ゴミ回収システムの構築、アップサイクル事業、テーマパークでの環境教育事業など、社会課題の解決を実現すべく「Re」をキーワードに行動して参ります。

中特グループの新しいロゴマークはす

に認知を得ている「Re」のハートを受け継いだデザインです。

新しいブルーとグリーンのReのハートが広く認知され、多くの方に愛され、社会的なお困りごとは“中特グループへ”とすべての方に言っていただける未来へ。新たなステージに踏み出した私たち中特グループにどうぞご期待下さい。

「再び」「繰り返し」といった意味を持つ「Re」をモチーフとしたハートを、緑を大切にし、水と共に生きる想いをこめたグリーンとブルーで表現。

「Re」を抱いた心が、体系的にグループ連鎖していくことで、ブランドメッセージともあわせ、来るべき循環型経済の実現に貢献していく、私たちの意思と行動力を示しています。



リブランディングメンバー

山本・藤田・秦口・梅本・原田・松村・山口・峰岡・竹田・河内
久保・内山・石田・川本・大山・山根・江村・廣瀬・篠田・轟本・上原

山口県認定第一号「体験の機会」認定取得！

株式会社中特ホールディングスが5月20日(水)山口県初の「体験の機会」の認定を取得しました。

山口県では第一号の認定で、名称は「ダチョウによる食品リサイクル」の仕組みと食品ロスについてです。



体験内容は、ダチョウによる食品リサイクルについて学習し、実際にダチョウの給餌体験を行い、併せて食品ロス削減についても理解してもらいます。

中特グループでは以前から周南市内の小学校での環境出前授業を実施しており環境学習に力を入れていましたが、自社スペースで小学生の体験学習を行うのは初めての試みです。

沢山の方に食品ロス・3R・食品リサイクルについて考えて頂ければ良いと思います。



「第1・2回 体験の機会」の場」プログラム開催

7月4日(土)に初の「体験の機会」の場」プログラムを開催しました。

野菜くずをパクパク食べるダチョウの姿に、皆さん驚かれました。

プログラム後半、プレゼンターのあーちゃんからの「今日からご飯を残さず食べますか？」の問いに、参加の子どもたちからは「はい」という元気な声もあがり、楽しみながら学べて頂けたと思います。

第2回は9月13日(日)、ボーイスカウト徳山第1団の皆さんが参加されました。

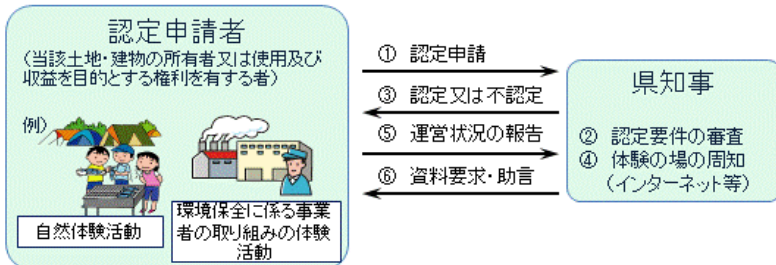
このプログラムを通して食品リサイクルや食品ロスについて考えて頂ければ幸いです。

このプログラムを通して食品リサイクルや食品ロスについて考えて頂ければ幸いです。

このプログラムを通して食品リサイクルや食品ロスについて考えて頂ければ幸いです。

「体験の機会」の認定制度

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」第20条に基づき、土地所有者が提供する自然体験等の機会について、一定の基準を満たしている事を条件に都道府県知事が認定する制度です。



山口県庁環境政策課のページ

ダチョウによる食品リサイクル

スーパーや飲食店などで発生する野菜くずなどのリサイクル方法としてダチョウによる食品リサイクルに取り組んでいます。ダチョウは雑食性で1日に10kgぐらいの野菜くずを食べます。

下松リサイクル工場では7羽のダチョウを飼育しており、1年間で約20トンの野菜くずを食べています。これらは焼却施設で焼却処分されていたものです。

また、ダチョウの卵からのだしなど新しい商品開発に取り組んでいます。



Topics 2020

AT : 2019.10 ~ 2020.9

令和2年度 文部科学省委託事業

「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」にノミネートしました。

株式会社中特ホールディングスが「子ども&環境&未来 You Me Go」として海岸ごみ拾いとアートクラフト&稚魚放流プログラムで「体験の機会の場」研究機構全国7団体の1つとして参加します。

風光明媚な瀬戸内海の海岸をクリーンアップ、拾った物でアートクラフトにチャレンジ、きれいになった海岸で可愛い稚魚の放流を体験します。

委託事業の趣旨

今般のコロナウイルス感染症の影響による屋外での活動の減少や未知の感染症に対する不安感などは、子供たちの成長にとつて良くない影響を及ぼす恐れがある。よって、本事業において、各地域の感染状況及び感染防止に十分留意した上で、自然の中での体験活動を充実する取組みを全国的に展開することで子供たちの元気を取り戻し健康やかな成長を図る主旨です。

(文部科学省HPより)

令和2年度 文部科学省委託事業

子供たちの心身の健全な発達のための 子供の自然体験活動推進事業



～認定「体験の機会の場」を活用して子どもたちの笑顔と自然をつなげる～



「体験の機会の場」研究機構

橋本CEO

「地方功労者表彰」受賞

この度、橋本CEOが公益社団法人全国産業循環連合会より「地方功労者表彰」を頂きました。

これは、産業廃棄物処理事業の推進に多大の貢献をした功績を顕彰し表彰されるものです。

永年にわたる産業廃棄物処理に関する努力が認められたものと考えています。



日々の積み重ねはとても大切で大きな力に繋がっていくのですね。

リサイクルで新しい価値を！ 残糸からオシャレなふるしき

このふるしきは、素材のボーダー部分を残糸で作っています。残糸とはボーダーやチェックの生地を作る時の残った糸です。これらを利用して、再度製品にする地球環境にやさしいエコと、大量生産の1点モノという新たな価値を作りました。



Chutoku 残糸ふるしき

中特グループ×うるとらはまい

デザイン事務所

(周南市内の店舗及び

インターネットで発売中)

山口県海外技術研修員、ペルーより フェルナンド君研修受け入れ

本事業は、山口県と結びつきの深い海外の若者を受け入れ、知識・技術の習得機会の提供や県民の皆様との交流を通じて、出身国の社会・経済の発展に寄与する人材を養成するもので、中国特殊(株)で2019年9月より2020年2月まで受入れ研修しました。



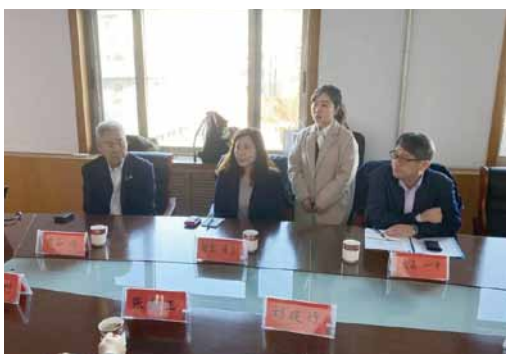
半年間でしたが研修生にとって、山口県での生活は大変印象深いものになったようです。
ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。
研修生の皆さんには、これからも日本とそれぞれの国の架け橋となって活躍されることを期待します。

日中友好協会の周南地区代表として 中国訪問

12月末に山口県日中友好協会の周南地区代表として中特グループから橋本CEO、吉谷専務、袁社員の3名で、中国の山東省を訪問しました。



今回の交流をきっかけに相互の繋がりをもち、交流を深めてコラボする機会を探し求めます。



(通訳する袁社員 CS 営業部所属)

臨淄生態環境分局で廃棄物の処理及び資源のリサイクルについて幅広く意見を交換しました。

今度の訪問交流で、山東省と周南地区の絆が深くなって、将来に向けてより多くの領域で連携し、お互いに長所をとって短所を補う土台を作りました。

山東英科環保再生資源株式有限会社を見学し、双方は再生PSプラの回収、加工、再利用について深く交流連携する希望を示しました。
中特グループが廃棄物の回収、再利用で連携する可能性があり、

新型コロナウイルスへの対応について

今年初めより新型コロナ（COVID-19）により多大な影響を受けると同時に世の中が大きく変化しました。中特グループは休業することの許されない業務の性格から感染蔓延した場合で如何に業務を継続するか行政の指導を受けながら腐心し対応しております。対応状況について HP でも紹介しておりますが、骨子は下記の通りです。

【会社内・業務時の注意事項】

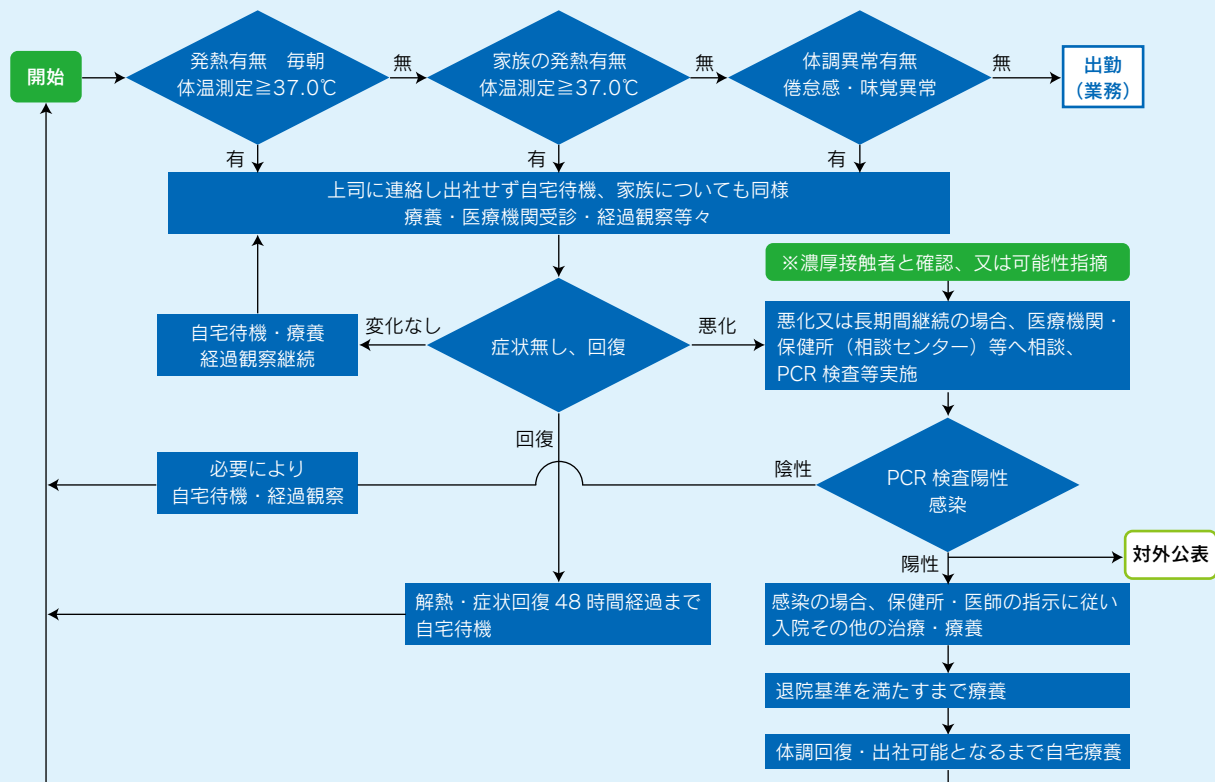
1. 入室時必ず手洗い・又はアルコール消毒実施
2. 室内・車中は窓を開けて換気する
3. ドアノブ等共用部分は逐次消毒する
4. 屋内作業
 - ・マスク着用・訪問前に検温
 - ・十分に換気し三密を避ける
 - ・先方対応者の検温等を書面にて求め確認 →チェックシート使用
 - ・一定の距離（2m以上）はマスク外して可
 - ・対面時はマスク着用
 - ・高温多湿となる時期は熱中症予防の必要があり、こまめに休憩と水分補給
5. 屋外作業
6. 営業訪問時はマスク着用
7. 不要不急の県外（首都圏・関西圏・感染拡大地域）への出張及び来客については控える（※感染状況により変更）
8. アクリル板などを使い遮蔽する
9. 万一発生時の濃厚接触者限定のため、共同作業・ローテーション等は状況を見て対応 ※ BCP 会議にて協議及び指示
10. 喫煙所は密を避けるため3名までとする

【プライベート含む留意事項】

1. 全社員が公衆衛生を担う業務をしている自覚を持ち行動する（休日も同様）
2. 密閉・密集・密接の場所を避ける ※濃厚接触する様な会食（飲酒を伴い長時間にわたるものなど）は避ける
3. バランスのよい食事・良質な睡眠を心掛ける
4. 家族親族との面会等についても感染防止の配慮をする

中特グループ 新型コロナウイルス（COVID-19）に関する対応手順フローチャート

2020.9月現在

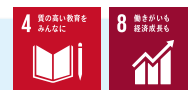


NEXT 17 Targets

次世代のために果たすべき、中特グループの17の課題 【経営目標&安全・環境目標】

中特グループが地域社会に強く必要とされるために、次世代のために、環境のこと、社会のこと、子供たちのことを考えてグループで何をすべきか、あるべき姿に向かって取り組んでいます。2030年を見据え新3か年計画を作成、Targetを見直し、17の課題に設定し変えました。

No.1 中特アカデミーによる自己成長

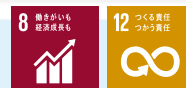


社員の自己成長を図り、自ら考え行動する自立型姿勢を基本に、お客様から頼りにされる人、中特グループ目標を達成実現できる人、本気のプロフェッショナルを目指し「中特アカデミー」を実施しています。2015年度から開始し6年目となります。2020年度は、部長・GLの管理職、主席・主任、一般の3グループに分けて企業理念、廃棄物処理法、各社チーム作り研修などを実施しています。

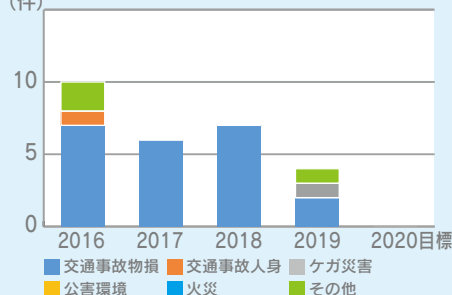


No.2 事故・災害の撲滅

事故災害年度別発生状況 (件)



事故災害は常に"ゼロ"を目標に取り組んでいます。業務の内容に関連して車両による小規模な物損事故が散発します。JBK (事故撲滅研修)・RA (リスクアセスメント) 活動その他諸々の活動により年間4件まで削減しましたが、さらに安全運転・KY運転・かもしれない運転を徹底して事故ゼロを目指し活動します。2020年度はISO45001をフルに運用します。



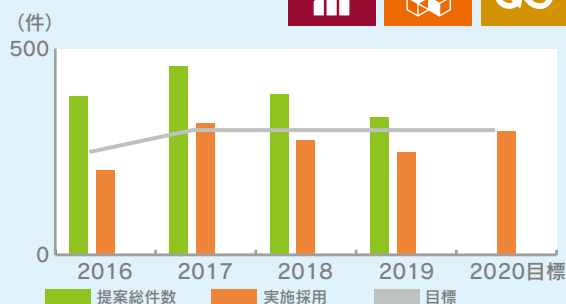
No.3 中特チームカイゼン(CTK)活動



社員の問題意識を高め、業務効率化・コスト削減・省資源・省工ネ・安全・環境美化向上等々を図るため、改善提案制度を実施しています。

2019年度実施採用件数は249件/年となり、目標達成率83%、前年度より若干減少しました。

2020年度はグループ合計実施採用件数300件/年目標とし、新たにチームで取組むCTK活動を開始し目標達成を図ります。



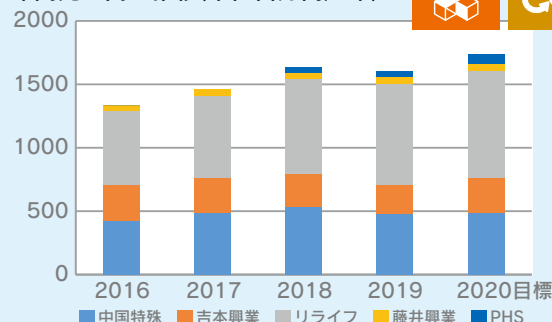
No.4 年間売上高



売上高は、2017年度14.6億、2018年度16.4億、2019は前年比1.2%減16億でしたが、2020年度は、7.5%増17.4億を目標としています。

少子高齢化、人口減、周南コンビナートの操業減少・産廃減少など、厳しい状況ではありますが、リサイクル事業拡大・解体事業拡大・ポータルサービス事業の展開・異業種との連携など売上増に取り組んでいきます。

年間売上高の推移(単位百万円/年)

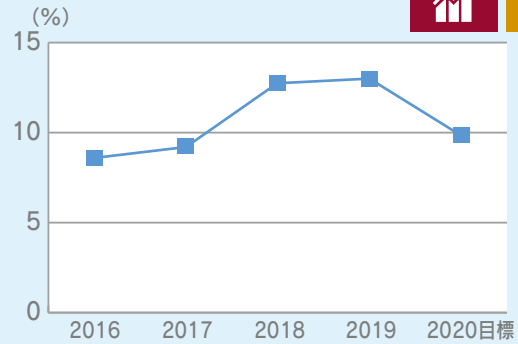


No.5 経常利益率10%超確保

営業利益率目標を10%としています。

2019年度はリライフ受注が好調で、処理が困難な物を受け入れ、付加価値の高い処理を行うことで利益率アップにつながり、目標を越え13%となりました。

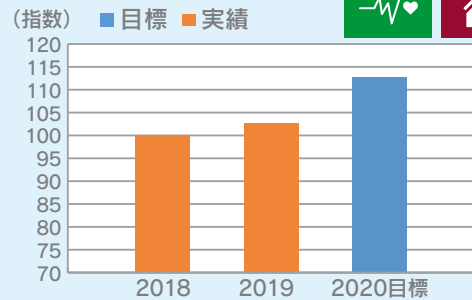
受注からの各プロセスについて収益を見直し、改善を進めてまいります。



No.6 働き方改革、労働生産性向上

少子高齢化・労働人口減少の中で持続可能性を確保するために、少数精鋭で生産性の高い体質作りが重要です。

IT活用・業務効率化を進め、同時にワークライフバランスの推進・社員の健康で充実した生活を後押し、「社員の幸せNo.1」を目指します。当面労働生産性10%向上を進めます。



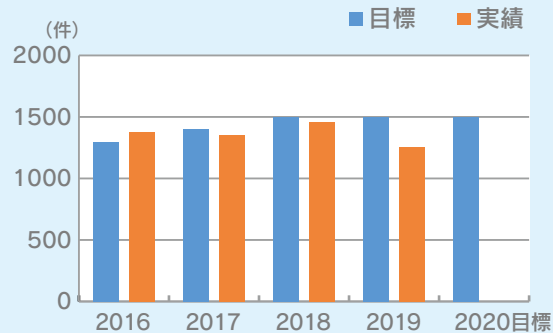
No.7 お客様の声収集とクレーム50%削減

私たちの収益の源は「お客様」です。

お客様のニーズをとらえ、顧客満足度を上げ、私たちのレベルアップにつなげ、さらなる顧客サービス向上につなげます。また苦情やクレームは「宝」、私たちにとって業務改善の大きなチャンスです。

2019年度のお客様の声収集は、目標1,500件/年に対し、1,257件/年と目標達成率84%でした。

2020年度も1,500件/年の目標で取り組みます。

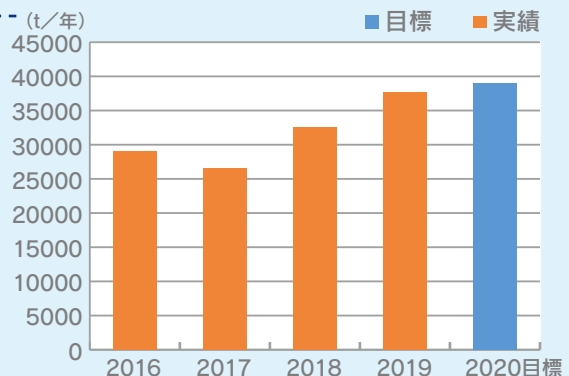


No.8 廃棄物受入量の拡大

産業廃棄物（汚水・脱塩・改質・その他施設）での受入量は、地域環境維持向上のため、お客様のニーズに応えるため、売上増のため、拡大を図るべく取り組んでいます。

2019年度は、前年度比大幅増加となり、37,650 t/年となり目標を達成するとともに過去最高の実績となりました。

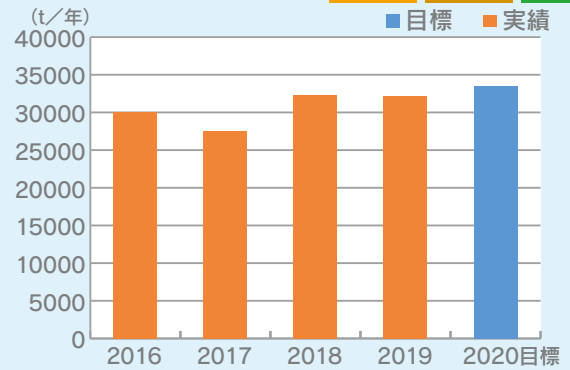
2020年度もさらに拡大を進めてまいります。



No.9 再資源化量の拡大

汚泥等の再資源化量についても受入量と連動し、拡大を目標として取り組んでいます。

2019年度は、前年比横ばいの32,199 t/年となりました。引き続き再資源化量拡大に取り組んでまいります。

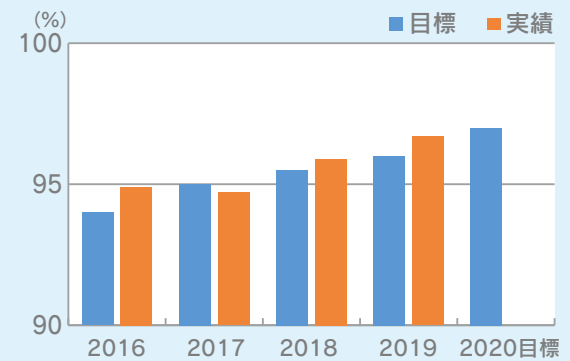


No.10 再資源化率アップ

地球環境の維持改善にわずかでも貢献するため、産業廃棄物の再資源化率を極力上げる様に取り組んでいます。

2015年92%から向上を図り、2018年度95.9%、2019年度96.7%にアップしてまいりました。

さらに向上を目指します。

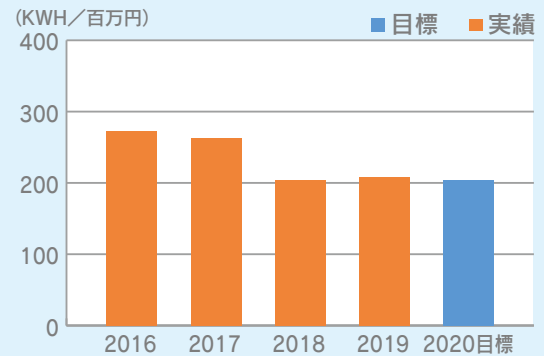


No.11 電気使用量原単位の削減

省エネ法では一定以上のエネルギーを使う事業所はエネルギー使用効率を毎年1%向上させることを義務づけています。

中特グループは合計でも原油換算量1,000KL未満なので該当しませんが、電気量原単位を省エネ法の2倍の2%削減において取り組んでいます。

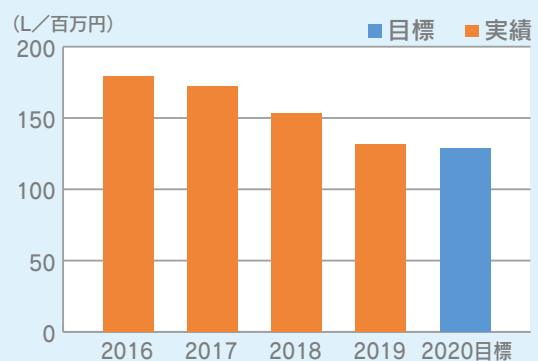
2019年度は、リライフ他各部門の電気量削減努力並びに売上増加により前年比2%微増となりました。



No.12 燃料使用量原単位の削減

燃料原単位についても、電気量と同様に年2%削減目標で取り組んでいます。

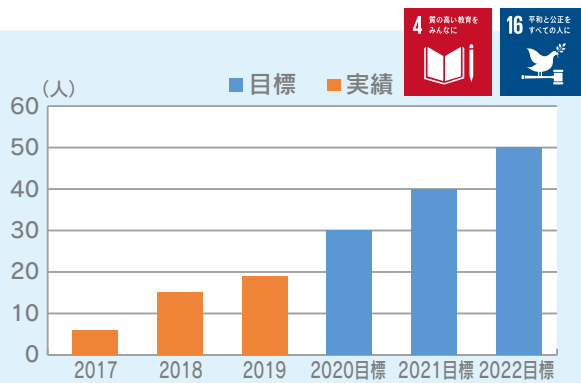
2019年度は燃費削減努力、車輛更新並びに売上増により14.3%削減となりました今後とも効率的な運行ルート、アイドリングストップなど燃料削減の取組みを継続してまいります。



NEXT 17 Targets

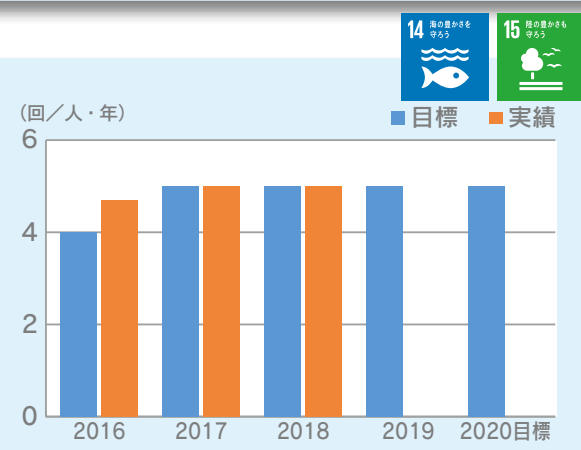
No.13 CSR活動の浸透・CSR検定合格者50人

CSR活動のさらなる浸透を図って行きます。
CSR検定試験3級合格者は2019年度末合計19人ですが3年以内(2022年度末)までに中特グループ合計で50人以上を目標に進めて行きます。



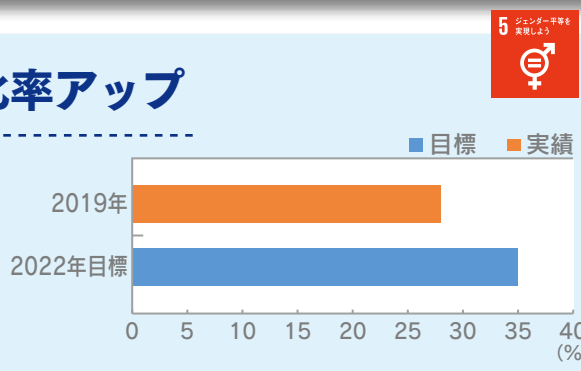
No.14 ボランティア活動への参加

地域のイベント時及び海岸などの清掃ボランティア活動を継続して実施しています。
クリーンアップ活動ボランティアは従来の延べ回数から、2015年度より1人当たりの年間回数の目標としています。
2019年度はコロナ禍で中止余儀なく、今後も従来の様な活動は困難かと思いますがボランティア精神は忘れずに行動します。



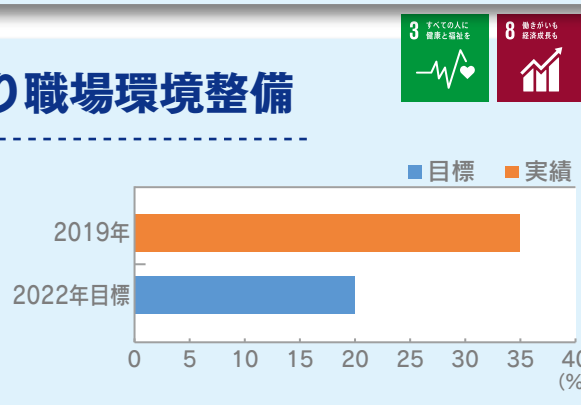
No.15 女性社員比率、女性管理職比率アップ

多様性・ダイバーシティを推進してまいります。
現在女性社員比率28%これを3年以内に35%にすべく推進します。
障がい者雇用、法律(45.5人以上の企業2.2%)には該当しませんが、グループ全体で準用し法定の倍以上5%を目指して努力します。
外国人雇用、すでに一部採用しておりますが今後雇用比率6%を目指し拡大して行きます。



No.16 健康経営の確立と健康づくり職場環境整備

中特グループ全6社「やまくち健康経営認定制度」を取得、グループ全社が認定基準65点以上を達成します。
2019年時点で、吉本興業・リラief・藤井興業の3社が達成、残り3社です。健康診断結果を100%フォローします。流行性感染症対策を継続実施します。
禁煙助成制度策定並びに運用 喫煙者(比率)減少
34.8%(2019年) ⇒ 20.0%以下(2022年度)



No.17 リスク管理・BCP見直しと機動的運用確認

自然災害、新型コロナウイルス含む感染症対策について新しい生活様式に合わせた事業継続計画(BCP)を見直し作成します。
異常ともいえる豪雨・台風など、予想される東南海巨大地震、新型コロナ・インフルエンザなど感染症対策、これらの発生時に如何に事業を継続出来るか、地域社会に必要とされるために確立しておきます。
自助・共助・公助を基本として、社員と地域社会のくらしを守るBCPの確立と運用を進めます。



環境のために



「中特グループは、地球上の全人類及び地域社会とともに持続可能な発展をするために、環境保全に努め、環境に優しい企業活動を行う。」という考えのもと、地域環境活動を推進しています。

	環境不適合・緊急事態の内容	是正処置等
①	パッカー車給油口キャップ締付け不良により軽油漏れ	キャップ爪2個の1個しかかからず発進した。完全締付け確認
②	環境目標の未達成4件	未達原因の調査と今後の対策検討フォローアップ実施

環境不適合の発生状況

緊急事態及び環境不適合は発生Oを目指して取組んでいます。2019年度次の不適合が発生しました。其々原因調査並びに処置対策を実施しています。

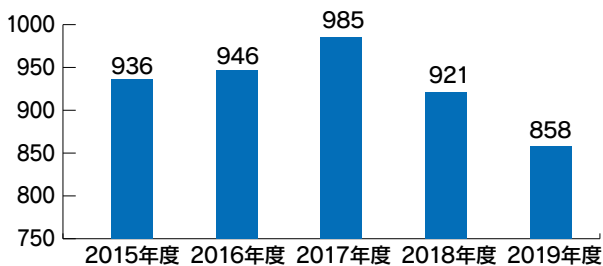
ぶちエコやまぐち〜CO2削減県民運動取組み中

ノーマイカーデーは、周南市提唱のノーマイカーデーに則り毎月第3金曜日に実施していますがコロナ禍の影響もあり参加者減少、2割強の参加者に留まっています。



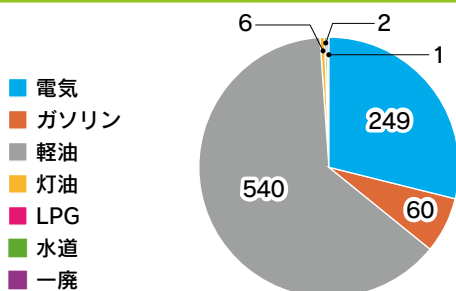
グリーンカーテン・ノーマイカーデー、クールビズなどCO2削減活動を継続しています。今年もグリーンカーテンは各部門に分かれてへちま等の栽培を実施。

CO2排出量推移 (単位：t-CO2/年)

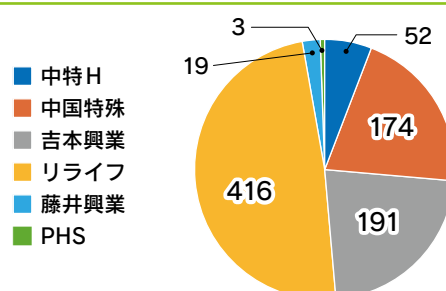


CO2削減の取組み
パリ協定により日本も2030年までの削減目標を定めています。これに沿って中特グループもCO2削減を推進しています。
2019年度CO2発生量は858t・CO2/年と省エネ効果、吉本のルート見直し・車両更新、リライフ操業変化、破碎機休止などの影響で前年比7%減少となりました。今後も日本政府の削減目標以上を目標として具体的な削減に取り組んでまいります。

種別CO2排出量 (単位：t-CO2/年)



各社別CO2排出量 (単位：t-CO2/年)



種別排出量並びに各社別排出量は次の通り

環境ISO 14001の 6回目更新

6月15日～17日の3日間、ISO14001の6回目の更新審査がありました。

改善の余地3件指摘がありましたが無事更新審査は終了しました。



改善の余地3件

- ① 「有意な取引先一覧表」に、浄化槽維持管理等に関する取引先は記載されていません。
- ② 「順法法令等登録表兼順守評価記録」に関し一部不備があります。
- ③ インプット情報と環境パフォーマンスについての記載が不足しています。

環境緊急事態訓練



中特 HD 軽油スタンド漏洩対応



リライフ汚泥流出対応



e クリーン軽油漏洩対応

(2019年度分)

INPUT

事業に伴う資源・エネルギー等

汚泥	29,011t
がれき類	556t
ガラスコンクリ他	190t
廃プラスチック類	757t
金属くず類	151t
繊維くず	2t
紙くず類	20t
ダンボール紙類	325t
木くず	397t
廃アルカリ廃酸	385t
廃油	208t
鉱さい	75t
もえがら	5,429t
ばいじん灰類	375t
動植物性残渣	0t
処理水	36,796m ³
水道水	2,674m ³
地下水	2,270m ³
電力	366,656kwh
ガソリン	25,836リットル
軽油	206,253リットル
灯油	574リットル
LPG	131m ³
コピー用紙	181,282枚

中特グループ

OUTPUT

再資源化、地球環境への排出等

セメント原料	29,327t
がれき類	893t
ガラスコンクリ陶磁器	1,519t
廃プラ	84t
ペットボトル	67t
金属くず	168t
缶	131t
紙・繊維くず	12t
ダンボール紙類	325t
木くず	433t
肥料原料	2t
石膏ボード	26t
汚泥焼却	329t
汚泥埋立	729t
処理排水	34,693m ³
下水排水	2,595m ³
地下水排水	2,190m ³
CO ₂ 排出量 (換算)	858t
一般廃棄物	1,452kg

リサイクル率:96.72%

マテリアルバランス

事業活動に伴う資源・エネルギーなどの投入量と、それに伴う地球環境への排出量を表しています。限りある資源を大切に、環境負荷を最小限にすべく取り組んでいます。

地域社会とともに



中特グループは、地域社会の一員として、地域社会とのかかわりを大切に、グループ全社をあげて様々な企業活動を行っています。

フードバンク山口、地域社会とともに活動中！

周南地区12番目の フードバンク ポスト設置

7月17日(金)徳山駅前図書館にフードバンクポストが設置されました。駅前図書館には、1日約5,000人の方が訪れます。沢山の方にフードバンクの取り組みを知って、理解して、参加して頂ければ幸いです。



橋本CEO(左)と櫻澤館長(右)

9月にアルク下松店様、アルク生野屋店様にフードバンクポストを設置させて頂きました。これで周南地区のフードバンクポストの設置は12か所になりました。引き続き、皆様の温かい気持ちをお預かりし「もったいない」を「ありがとう」へ変える活動を続けていきます。

「ありがとう」へ変える活動を続けていきます。



アルク生野屋店様

あわせて、ボランティアを募集中です。私たちと一緒にフードバンク活動を広めていきましょう。毎週水曜日午後12時～15時に「しゅうなんステーション」を開所しております。ボランティアにご興味のある方は是非いらしてください。お待ちしております。

平郡東島おこし推進協議会様よりフードバンク山口へ寄贈

6月1日(月)、柳井市の平郡東島おこし推進協議会様よりフードバンクに、島で収穫されたサツマイモと甘夏を寄贈いただきました。贈呈式が行われました。

贈呈式には、平郡東島おこし推進協議会の森田修会長、柳井

市地域おこし協力隊員吉本興業(株)の「平郡島住みます芸人」のぶるぼんさん、「山口県住みます芸人」どさけんさん、山口ふく太郎・ふく子さんが参加されました。寄贈していただいた皆さんの笑顔が溢れることと思います。



平郡東島と住みます芸人の皆様

こども食堂応援

新型コロナウイルスの影響で全国の小学校・中学校・高等学校で3月から長期間の休校措置が取られました。

ウイルスの感染も大変な事です、学校の給食が「食の頼みの綱」となっている子どもたちが



西京銀行周南支店の皆様

るのが現状のようです。また、こども食堂の開催も自粛となりました。そこで、フードバンク山口は食に困っているご家庭に直接食糧を届ける「こども宅食便」を実施致しました。

中特グループ社内で 寄付と食糧の寄贈

中特グループ社内でも寄付と食糧の寄贈を募りました。皆のあなたが気持ちがあたさん集まりました。

また、来社されていた西京銀行周南支店長の渡辺様が「是非、私たちにも協力させて下さい！」と行員の皆さんに声を掛けて下さり、なんと半日の間に沢山の食糧と寄付を集めて下さいました。ご協力を頂いた皆様、深く感謝申し上げます。

**西京銀行様より
フードバンク山口へ
助成金拝領**

2月フードバンク山口は西京銀行様より日頃の活動を評価され、助成金を頂きました。この助成制度は、公益財団法人西京教育文化振興財団様が、山口県の教育・文化・芸術並びにスポーツ面で著しい成果を収めた、また他の模範となる団体及び学校等への助成を行うものです。「フードバンク活動」が評価され令和元年度の助成金を頂きました。

これを励みに今後も「フードバンク山口」は地域の皆様に貢献していきます。



助成金を受け取る今村代表(右)



**親睦会で「がんばろう
周南プレミア付食事券」
を購入**

毎月社員から「親睦会費」として集めた資金を積み立て、慶弔金や交流イベント費に充てていましたが、新型コロナウイルスの影響でイベントの開催が中止となり、積立金をどう使用するか頭を悩ませていました。

そこで、コロナ禍で集客に悩む飲食店様も、社員もお互いHappyHappyになる「がんばろう周南プレミア付食事券」で還元しようという事で決定しました。



**「やまぐちこども
未来チケット」開始**

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている飲食店とこどもの両方を支援する「やまぐちこども未来チケット」が始まりました。



従来からある飲食店未来チケットの枠組みを利用し、周南市内のこども食堂を利用する子どもたちへ「こども未来チケット」を配布し、地元の飲食店で食事してもらうことで子どもの支援と地元飲食店への支援を同時に行う仕組みです。このチケットは、「こども食堂」を運営している方から配布して頂きます。

清掃ボランティア活動

11月7日(木)
徳山港町公園清掃



9月26日(木)日下松港
第2ふ頭海岸清掃



7月18日(木)大津島
海岸清掃&稚魚放流



12月21日(土)
徳山ツリー祭り清掃



その他、墓地清掃・出勤土曜日地域清掃ボランティアを実施しています。

お客様とともに



中特グループは、お客様や地域に愛される企業を目指し、真にお客様の立場になったサービスに取り組んでいます。

リライフ下松リサイクル工場が ISO9001認証取得へ

みんなが主役の 製品づくり

リライフ下松リサイクル工場は、中特グループ内で先駆けてISO9001(品質)の取得を目指しています。

そもそも、「なぜ廃棄物を処理しているリライフが品質？」と思われる方もいると思いますので簡単に説明します。

リライフは、主に産業廃棄物の中間処理及び産業廃棄物の収集運搬を主軸とした事業を行っています。中間処理とは、最終処分やリサイクルが出来る様に形状、性状、成分等を整え安全化、安定化、減容化する事です。

リライフで中間処理した物は次に最終処分、リサイクル先へ搬出をします。

現在リライフの搬出先は、最終処分、リサイクル先32社様と契約をされており各社毎に受入規格も違います。搬出先の求める規格値調整

もリライフで行っています。

ここでの規格値調整には細心の注意を払っています。

先ず行うのは、排出事業者様からお預かりした「廃棄物」の組成や特徴を調べる事から始まり、リライフの数ある施設の中で、どの施設に適しているのか、どこのリサイクル先に搬出するのかなど念入りに調べたのちにリサイクル先の受入規格値に合うように配合計画を立て「製造」しているのです。

ここまで読まれて、なぜリライフがISO9001(品質)を取るのかが少し理解して頂けたのではないのでしょうか？

やっている事は「製造業」と何ら遜色ない、それ以上と自負しています。そう私が感じるのは、一般的な「製造業」は「安定的」に「安全な原料で製品を「作る」と思いますが、リライフでは「不定期」で「不安定」な廃棄物で「創る」という事です。この様な経緯もあり以前より橋本CEOが「処理業から製造業への転換」を目標として掲げて来られました。

その目標の下、数年かけて下準備を行い、そして約2年前にISO9001(品質)を取得する事を決めました。

先ず、ISO9001(品質)を理解する為に、外部講習会等に参加し基礎知識を学びました。ここから社内業務の洗い出し、書類確認、整理、新規作成と多岐に渡り、ISO9001の要求事項を満たせる取り組みを行いました。



ISO9001社内勉強会

2020年7月3日に初めてとなる内部監査を実施する事もでき、不適合5件、要観察11件の結果から改善の機会を得る事も出来ました。

2020年8月27日には審査会社による初動一次審査を受け軽微な懸案領域1件の結果を受け、無事本審査を9月27から2日間受ける運びとなりました。



ISO9001本審査状況

このCSR報告書が皆さんのお手元に届く頃にはISO9001を取得出来ていると思います。

ただ、取得が目的ではなく顧客満足度の向上、また会社の品質、社員の品質、製品の品質などを高める事への手段に過ぎないと考えています。

これからPDCAを繰り返してISO9001を確実に運用していきます。

㈱リライフ 品質管理室 室長

廣瀬 光雄

お客様のご意見

日本ゼオン株式会社
徳山工場 業務管理課 業務グループ
内田 成貴様

中特グループ様とは、産業廃棄物の処理に関しての取引きをさせていただいており、日頃からグループ会社のリライフ様、吉本興業様、中国特殊様に変なお世話になっております。

また当社徳山工場では貴社のシンボルマーク「Re」が入ったゴミ袋を使用しており、全従業員が一番身近に感じております。

私は原料調達から廃棄物処理管理まで実施する部署に所属している関係で、貴社には発生する廃棄物の困りごとで真っ先に相談し、親切にいつも対応いただいております。

この度中特グループ様の地域との対話を目的に発行されています、CSR 報告書の「お客様のご意見」原稿を依頼され、改めて CSR 報告書を拝見いたしました。

企業理念の使命として「私たちは生活環境革命で人々を幸せにします」を掲げられ、目指すポジションとして、①社員の幸せ②お客様満足度③

社会に貢献④未来の創造、全て NO1 を目指し、取り組まれています。この目指す活動内容を CSR 報告書で公開され、対話しやすい環境づくりに活用されていると感じました。また社員との対話内容の掲載も多く、特に女性の活躍を促す風土づくり人づくりに早くから取り組まれており、会社全体のイメージが明るく感じられます。

更に特に印象深いことは世界規模での取り組みである SDGs についてです。過去の CSR 報告書を拝見しますと、2017 年ごろから既に掲載があり、今では SDGs の研修会も実施され、SDGs カードを使用したゲームなど、従業員が早く理解を深める努力もされていて素晴らしい活動と思えます。昨今 SDGs の身近では、海の豊かさを守ろうの取り組みとして、廃プラゴミの削減で 買い物袋の有料化や、エコバックといった取り組みが目につきます、当社でも以前は有価で出していた物が、廃プラのリサイクル

率低下により、産業廃棄物となり費用増となった事例があります。

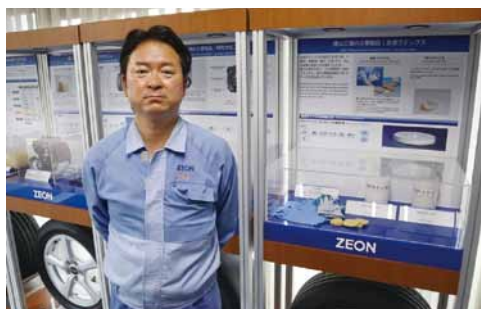
私も一人ひとりが生活改善を実践、継続していかなければと今ではマイバックを持ち歩いています。中特グループ様の CSR 報告書には毎回リサイクル率が公開されていますが、今後はリサイクル率の低下が予想され、心配しているところではあります。

なお当社徳山工場でもゼロ・エミッションを掲げ実践しています、現在コロナ禍でライフスタイルも変わり、今後は従来のゴミ処理、分別、再生原料化も変化してきます。

中特グループ様の熱心な取り組みを見て、共に地球環境の改善に取り組む姿勢を強く感じ、私も本気で取り組みをしなければと、意識するようになりました。

最後に、中特グループ様のますますの地域社会への貢献、ご活躍を期待しております。

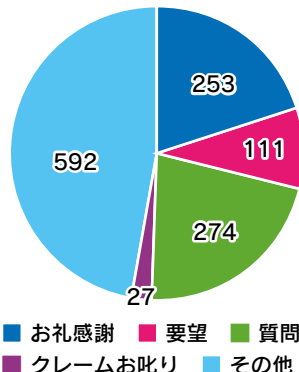
以上



昨年年度に比べ連絡コミュニケーション不良を除き督促・ミス・運転マナーなど減少しましたが、引き続きクレーム減少の努力を実行します。

	2017年	2018年	2019年
連絡コミュニケーション不良	19	4	5
まだですか？督促など	15	11	7
ミス（宛先、請求書内容など）	12	7	4
作業ミス、トラブル	9	10	7
運転マナー、駐車場所など	9	7	2
その他	14	14	2

クレーム・お叱りが27件あり、内容は表に示す通りです。



苦情の発生はありませんでした。お客様の声は2019年度1,257件/年でした。内容は左の通りです。

苦情〇とお客様の声収集

社員とともに



中特グループは、「すべては、応援からはじまるの精神で接する」という社員に関する方針を掲げ、社員は会社にとって一番大切な存在で、社員とその家族を守る事を最大の目標とし、事業拡大よりも優先します。

事業発展計画発表会

テーマ…想像力を磨く



2020年8月29日(土) 中特グループ事業発展計画発表会を遠石会館にて開催いたしました。

今年度はコロナ禍の中、開催が危ぶまれましたが、ご来賓の招待をとりやめ、社員のみで3密防止・ソーシャルディスタンスの確保等感染防止対策を実施し開催しました。

グループ代表 吉本英子より

社員へ向けて、今回のコロナ禍は『神の罰かも?』地球上に増えすぎ、争い・環境破壊をしている人類は淘汰されるかもしれない、ノアの箱舟に乗れる様に頑張っていきたいとメッセージがありました。



CEO 橋本ふくみより

「2019年度総括および中特グループ未来地図」の発表があり2019年度のふり返りや2020年度の売上など、グループ目標、未来地図として目指す会社、目指す人など、中長期のあるべき姿、など熱弁をふるわれました。



各事業部トップによる
2020年度経営計画発表表
中国特殊株式会社 川本 文吾
株式会社藤井興業 平岡 仙吉
株式会社吉本興業 吉本 妙子
株式会社ポータルハートサービス 吉本龍太郎
株式会社リライフ 江村 範久

表彰

◆最優秀部門賞

事業部全員が努力し高い売上目標を達成した
リサイクル事業部



◆永年勤続賞

勤続20年 中国特殊 内山 茂



◆最優秀改善提案賞

リライフ部長付 山田俊一
「脱塩施設解砕機エア注入配管新設」

各部門の個人表彰

表彰名	被表彰者所属氏名	表彰理由
◆アスファルトに咲く花のようで賞	C S 営業部 袁 夢	どんなに難しい事でも持ち前の向上心を持って全力で取り組み、必ず成果を持って帰ってくる姿勢がよい
◆業務スキルが up したで賞	中国特殊 e クリーングループ 藤井 慶雅	スキルアップを意識し、率先して現場管理や成果報告書作成に取り組み、自身のスキルがアップした
◆地道な努力が素晴らしいで賞	吉本興業スマイルグループ 弥益 新治	業務の改善意欲が旺盛で日々の地道な活動で作業がやり易くなったことは社員が実感するところ
◆細かな日報を書いたで賞	リライフリサイクルグループ 竹田 鉄平	細やかで時に熱く日報を書き、現場を見なくても状況が読み手に伝わる内容であり、他の見本となる

従来であれば懇親会を盛大に開催し、個人表彰を行い親睦を深め、今後の業務の円滑化を図るところですが、今年度はコロナ禍のため、各部署で表彰とし記念品を贈りました。



中特アカデミー

経営目標のトップに「中特アカデミーによる自己成長」を掲げて、人材育成に継続して取り組んでいます。2020年度は、新たに各社選抜メンバー対象のチームづくり研修を12回/年実施します。グループリーダー以上は廃棄物処理法（管理者編）・管理会計・労務研修など22単位、主席・主任は18単位、一般社員は企業理念、廃棄物処理法（基本）など6単位/年の修得を目指します。



ANG (アネゴ) ネットワーク活動中!

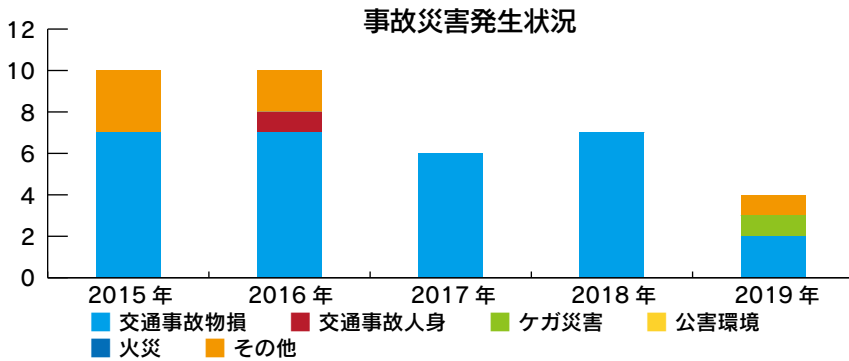
中特グループの女性社員で構成するアネゴネットワークが活発に活動しています。コロナ禍の中、定例のランチミーティングは開催制限されますが、社内外のあちこちで小さくないインパクトを与えながら活動しています。ご興味のある方は是非ANGブログもご覧ください。



事故災害ゼロをめざして



事故災害ゼロを目指してグループを挙げて、各管理者・安全衛生委員を中心として安全衛生防災活動に取り組んでいます。



発生させてしまいました。

事故災害発生状況

2019年度4件の事故災害を

事故災害ゼロを目指してグループを挙げて、各管理者・安全衛生委員を中心として安全衛生防災活動に取り組んでいます。

①	委託処理回収中、傾斜地でアームローダー車が下がり、民家のカーポート、車、擁壁等に接触した	サイドブレーキの引きが甘かった、第3ブレーキをかけていなかった、運転手の注意集中度散漫
②	周南市内で草刈り作業中、草刈り機により小石が跳ね道路走行中の車の助手席ガラスに当り破損した	防護ネットなどの養生をせず作業した刈払い資格（講習修了）のない者が作業
③	個人宅敷地内でバキューム車を寄せ過ぎ、ブロック塀に接触した	ハンドル切り過ぎ、ブロック塀に寄せ過ぎ運転（車幅）の感覚が鈍い
④	改質屋外ヤードで搬入車両のダンプ荷台を下げる際、汚れに気づき指を入れ人差し指を挟まれ骨折	ダンプ荷台下げを指示しながら汚れを取ろうと手を出した、必要のない車両汚れ取りに手出し

パッカー車安全勉強会

7月4日(土)吉本興業で使っているパッカー車の安全操作勉強会を新明和工業株式会社様を講師にお迎えし開催しました。机上教育並びに実際の操作指導を受け社員の安全意識と知識が向上しました。



救急救命講習会

11月2日(土)周南市消防本部東消防署より来社いただき普通救急救命講習会を開催しました。

AEDを設置していますが、使える人が少なく万一の時の対応に不安がありました。22名の講習修了者に加え不安が解消しました。

安全緊急事態訓練

万一の事故災害を想定して緊急事態対応訓練を1回/年実施しています。



eクリーン酸欠対応

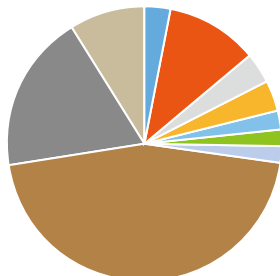


リライフ薬品漏れ対応

ヒヤリハット摘出と対策活動

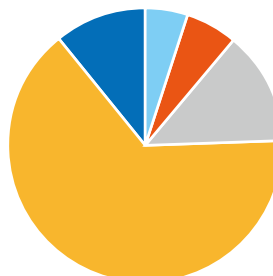
ヒヤリハットの摘出と対策を実施し顕在化する事故災害をゼロにすべく活動しています。
2019年度グループ合計で963件のヒヤリハットを摘出し、分析と対策を実施しました。
内容は表のとおりです。

事故災害の型別分類



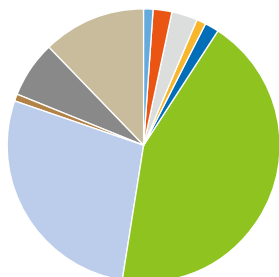
- 1 墜落、転落
- 2 転倒
- 3 激突
- 4 飛来落下
- 5 挟まれ巻込まれ
- 6 切れこすれ
- 7 有害物質の接触
- 8 交通事故他者原因
- 9 交通事故自己原因
- 10 その他

部門別提出状況



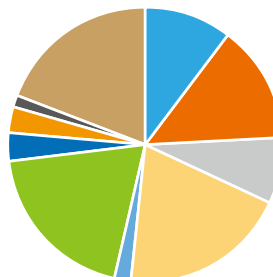
- 総務 +CS 営業
- e クリーン +SB
- HOS(含藤井興業)
- 吉本興業(含 PHS)
- リライフ

管理上設備上の要因



- 1 手順書の不備、習得不足
- 2 設備上の不備
- 3 作業段取りの不備
- 4 指示命令の不備
- 5 保護具工具等不備
- 6 不安全行為・状態(他者)
- 7 不安全行為・状態(自分)
- 8 作業教育訓練不足
- 9 天気・日照・気候等
- 10 その他

人的及び状況環境要因



- 1 良く見えなかった
- 2 気づかなかった
- 3 見落とした
- 4 安易に考えた
- 5 急所に気づかなかった
- 6 あわてた
- 7 体のバランスを崩した
- 8 手順を無視した
- 9 疲れていた
- 10 その他

各エリア朝礼

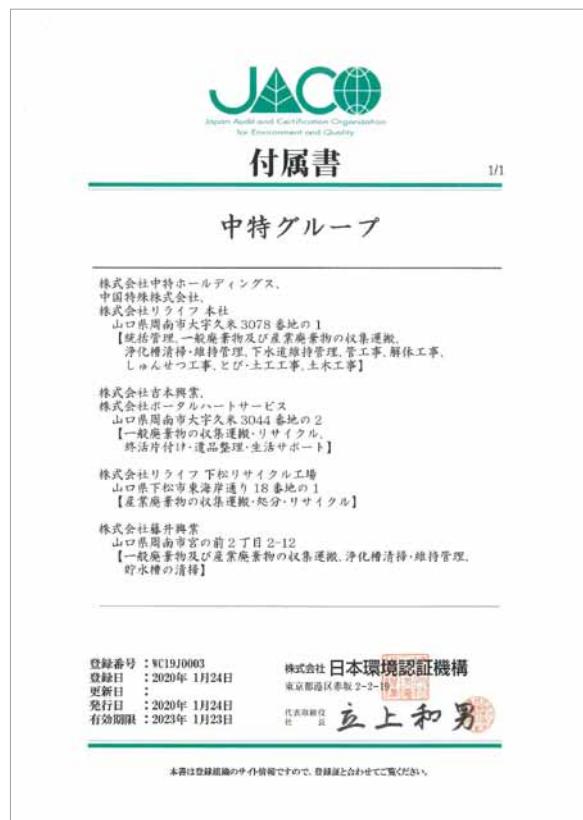
中特グループでは本社エリア・吉本興業・リライフの3グループ各エリアで毎朝始業前の朝礼を実施しています。ラジオ体操で体をほぐし、安全他関係事項を伝達します。



本社エリアでは前面の安全のぼりが安全作業をアピールします。

グループ全社業務 ISO45001 認証取得

中特グループでは、ISO45001 発行以前から安全ISO 認証取得活動を推進してまいりました。2019年7月末まで新しい安全管理システムを運用し、その後、内部監査①、初動審査、内部監査②、本審査の順で実施し、2020年1月24日判定委員会にて中特グループ全社業務のISO45001 認証取得が決定いたしました。



	~2019.3	4-6	7-9	10	11	12	2020.1	2
規格理解	→							
内部監査員養成	→							
方針・目標	→							
マニュアル	→							
実(テスト)運用	→							
内部監査			①		②			
マネジメントレビュー			◎					
外部審査				○ 初動		○ 本審査		
認証							判定 ▲	授与式 ★

認証スケジュールは表の通りでした。

認証スケジュール

ISO45001本審査

12月11～13日JACOより山中審査チームリーダーはじめ3名により本審査が実施されました。5件の改善の余地が指摘されましたが労働安全衛生マネジメントシステムの有効性を確認して頂きました。



登録証授与式

2月13日(木)には認証機関である株式会社日本環境認証機構(JACO)の立上和男様が来社され、橋本CEOに登録証を授与されました。



労働安全衛生目標

労働安全衛生方針に沿って経営課題と併せて目標検討設定しました。

目標項目	施策
1. 事故災害の撲滅 爆発火災、休業・不休災害、交通事故0	KY活動 ヒヤリハット RA活動 JBK(事故撲滅研修)他
2. ヒヤリハット抽出と分析及び対策 実行	ヒヤリハットの抽出1,050件/年 情報共有と分析及び対策実施
3. リスクアセスメントの実施と定着 ランクB以上のリスク低減、件数削減	1回/年以上全業務洗出し RA実施 工学的対策+管理対策+人的対策
4. 健康保持増進対策の実施 全社 山口県健康経営企業認定取得	健康経営振り返り評価シートによりチェック 相互パトロール時確認

リスクアセスメント活動

先取り安全としてリスクアセスメントを実施しています。
RA講習修了者並びに管理者が中心となつて全作業の洗出しリスク低減を実施しています。



作業名 (施設・業務等)	危険源、リスク ～が～して～なる	既存の 災害事故防止対策	現状：リスクの見積り 頻度 時間 発生率 暴露時間	リスクの低減対策 措置案
AA000	危険性・有害性と想定される災害事故	災害事故防止対策	頻度 時間 発生率 暴露時間	リスクの低減対策措置案
RD 1	足場作業	足場の設置	3 1 3 12 B	○ 運転手に着脱し防止 ケミカルボンズの着用
RD 2	高さ作業	足場の設置	2 1 2 20 B	○ 安全帯着用
RD 3	パイプから転落	手元保護装置	3 4 5 60 C	○ 作業マスクの着用
RD 4	高圧の電気がいる	高圧の電気の遮断	4 1 3 60 C	
RD 5	バケットクレーンで作業	2人作業	3 2 2 12 B	○ ワンタッチのバケット 警告音を聞き認識し 止める
RD 6	配管に置き転倒	足元注意	5 2 1 10 A	
RD 7	空質ピットカバーに落ちる	閉鎖前の閉鎖の確認	3 2 3 30 B	○ 回転防止のブレークの設置
RD 8	車両洗車時にピットへ転落	閉鎖前の閉鎖の確認 その後、身を乗り出し ピットを空にする	5 5 4 100 D	○ ホローを設置し洗車 作業時にホローを撤去する
RD 9	現場からの転落	足元の確認	1 3 5 15 B	○ 取り外し可能な足場の設置
RD 10	フロントガラスの破損	フロントガラスの保護	2 3 3 30 B	○ 保護ガラスの設置
RD 11	高圧ジェット使用時、ホース	高圧の電気の遮断	5 2 2 20 B	○ 定期的な交換
RD 12	高圧の電気がいる	高圧の電気の遮断	4 2 3 24 B	○ 電圧計の交換 電圧計を使用する
RD 1	ピット内に転落	閉鎖前の閉鎖の確認 入り禁止を促している	2 2 5 20 B	○ 立ち入り禁止を確実に する為立ち入り禁止ワイ ヤを設置する
RD 2	高圧の電気がいる	高圧の電気の遮断	2 3 3 30 B	○ 運転手の保護服の着用 作業マスクの着用 ヘルメットの着用 ケミカルボンズの着用
RD 3	ベルトコンベアー下部清掃中 に巻き込まれる	巻き込まれないことを確認 する	4 4 4 64 D	○ ケミカルボンズ(中核的な) 保護服の着用 ヘルメットの着用 ケミカルボンズの着用
RD 4	移動機が作業中に人が動 き込まれる	運転停止を確認しメン ションを行う	2 3 4 24 B	○ ケミカルボンズ(中核的な) 保護服の着用 ヘルメットの着用 ケミカルボンズの着用
RD 5	高圧の電気がいる	高圧の電気の遮断	5 3 3 45 C	○ 定期的な交換 電圧計を使用する
RD 6	高圧の電気がいる	高圧の電気の遮断	5 3 3 45 C	○ 定期的な交換 電圧計を使用する
RD 7	高圧の電気がいる	高圧の電気の遮断	2 3 3 18 B	○ 定期的な交換 電圧計を使用する

相互安全パトロール

現業部門に対し1回/月安全パトロールを実施中です。他職場の異なった視点で見て問題点、改善すべき点を探します。



実施日	実施者	対象	コメント
2020年7月28日(火) 13:00～14:00	吉谷専務、江村部長、久保副統、廣瀬部長代理、花木GL、岩崎GL、渡藤(記)	周縁公園近く 委託車両清掃作業	気づき、コメント
1.	作業者の服装などがきちん と揃っており良好 但し、暑い時期マスク着用と厳 しい条件なので空調服・空調ベ ストなど検討しては？	GOOD!	空調服検討
2.	歩行者・自転車が出た場合の 動線確保は？	動線確保	
3.	路上立て看板の位置が歩道の 左側で見えにくい	改善	

第3者意見



敬愛大学
経済学部経営学科 教授
博士（経営管理学）
栗屋 仁美様

【読み手目線のCSR報告書】

中特グループのCSR報告書は、読者の目を引くキャッチャーな表紙より始まります。ページをめくると恒久の企業理念、そして目次がありますが、目次はISO26000のどの項目に該当するかも記載されており、読み手目線であることがここでもわかります。CSR報告書として非常に優れた点です。

【中特グループとCSR】

勘違いされやすいのですがCSRは、社会貢献ではありません。CSRとは、事業を通して社会に役立ち、世の中のサステナビリティ（持続性）に寄与する経営行動のことです。中特グループの事業は社会に絶対的に必要なものであり、時流に左右される一過性のCSRではないことに大きな特徴があります。事業の具体は、私たちが不要と判断したものを、適切に物流にのせ処理あるいは再資源化するものです。

資本主義社会は生産・消費というものづくりには長けていても、使用したその後についてはあまり意識を向けません。しかし使用後を放置すると、かっこよく言えば経済の循環が滞る、柔らかく言えば世の中がゴミだらけになります。例えば、畳やフローリングの上が埃や屑、汚泥で溢れた状態ということです。中特グループは私たちの不要なものを、笑顔で引き取り運搬し、適切に処理・再資源化、かつ生活に潤いを与えています。よって仕事そのものが、まさにCSRなのです。

【理念とCSRの統合】

中特グループが使命として掲げる企業理念のとおり、同社への積極的な仕事への取組みが「生活環境革命」であり、私たちを「幸せ」に導くものです。中特グ

ループは、経営者と従業員の風通しが良く、社内から生まれるアイデアを宝とし、それらを具現化することでビジネスモデルのアップデートを行っています。よって、企業理念を堂々と胸を張って言えるのです。2020年夏、中特グループのロゴマークを一新したことによるホールディングスの結束力の高揚は、理念の浸透を促進することでしょう。

【ステークホルダー】

CSRの基本は、ステークホルダーとwin-winの関係を保ちながらビジネスを進めることです。中特グループはステークホルダーを、環境、地域社会、お客様、従業員、そして次世代とし、各々とwin-winを築いています。特に次世代に対しては、SDGsの17項目に即し昨年までより2項目増加したNEXT17Targetsを定め、達成度を明確に記しています。ステークホルダーに対する配慮の具体事例には、山口県の「体験の機会の場」の認定制度の登録第一号や、ISO45001のグループ全社による取得などがあげられます。

【期待すること】

CSRは言葉が一人歩きする概念のため、意識共有のため次の点を期待します。本業におけるCSRの深耕、それに伴うCSRとSDGsとの関係性の整理です。CSRとSDGsは別物ではなく、CSRの結果がSDGs項目への貢献です。よって両者の関係性の整理は、中特グループ全社のモチベーション向上につながるとともに、社会に対するCSRの本質の普及にもなるでしょう。継続のために変化し続ける中特グループを応援しています。

第3者意見を受けて

中特グループが取り組んでいるCSR活動について明確な意味理論付け・的確な意識付けされ、自信を持ったところがあります。私たち自身があまり詳細な意味意義がわからず、地域社会のためだろうと考え行動していることにアカデミックにご意見いただき感謝いたします。また、修正し考えを明確にして取り組むべき視点も見えてきましたので、本業とCSRとSDGsの関係性整理明確化と深化を進めていきたいと思っております。

CSR推進室 遠藤 清治

公正な事業と組織運営のために

経営執行組織図

SS会議 役員会議

ワクワク会議 部長会議

チャレンジ会議 目標進捗会議

HAPPY会議
営業会議

(株)中特ホールディングス

- 内部監査室
- 未来創造室
- 未来開発部
- IT戦略室
- 企画広報室
- CSR推進室
- 総務管理部
- CS営業部

設立：平成24年4月
代表者：吉本英子、橋本ふくみ
資本金：3,000万円 社員：20名
事業内容：中特グループ各社の経営企画・総務・営業・環境安全に関する業務、食品リサイクル事業

- エコライフチーム
- コンプライアンス事務局
- 安全衛生委員会
- 環境委員会
- 改善提案委員会

中国特殊(株)

エコ事業部

- ・eクリーニンググループ
- ・SBグループ
- ・HOSグループ

設立：昭和41年2月
代表者：吉本英子
資本金：2,000万円
売上高：478百万(2019年度)
社員：27名
事業内容：
一般廃棄物収集運搬業
産業廃棄物収集運搬業
下水道維持管理業、建設業
解体業、浄化槽保守点検業

(株)藤井興業

- ・アメニティチーム
(新南陽担当)

設立：平成5年4月
代表者：平岡仙吉
資本金：1,000万円
売上高：55百万(2019年度)
社員：4名
事業内容：
一般廃棄物収集運搬業
産業廃棄物収集運搬業
貯水槽清掃業、浄化槽保守点検業

(株)吉本興業

環境事業部

- ・スマイルグループ
- ・スマイルサポートグループ

設立：昭和42年7月
代表者：吉本妙子
資本金：1,000万円
売上高：234百万(2019年度)
社員：22名
事業内容：
一般廃棄物収集運搬業

(株)ポータルハートサービス

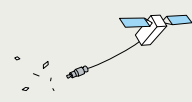
設立：平成30年8月
代表者：篠田直美
資本金：1,000万円
売上高：40百万(2019年度)
社員：10名
事業内容：
各種片付け事業
遺品整理事業
生活関連のお困りごとの解決

(株)リライフ

リサイクル事業部

- ・サポートグループ
- ・リサイクルグループ
- ・再資源化グループ
- ・品質管理室

設立：平成元年2月
代表者：橋本ふくみ
資本金：9,500万円
売上高：796百万(2019年度)
社員：24名
事業内容：
産業廃棄物収集運搬業
産業廃棄物処分業、リサイクル事業



まちと未来をキレイにする仕事。

Chutoku Group

株式会社 中特ホールディングス

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-26-0500(代表) FAX:0834-25-2856
[東京営業所]
TEL:03-5926-4030 FAX:03-5926-4040

中国特殊株式会社

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-26-0500 FAX:0834-25-2856

株式会社 吉本興業

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3044-2
TEL:0834-25-0423 FAX:0834-25-2939

株式会社 リライフ

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-33-8685 FAX:0834-25-2856
[下松リサイクル工場]
〒744-0002 山口県下松市東海岸通り18-1
TEL:0833-44-0007 FAX:0833-44-1007

株式会社 藤井興業

〒746-0017 山口県周南市宮の前2-2-12
TEL:0834-63-1294 FAX:0834-25-2856

株式会社 ポータルハートサービス

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-33-8100 FAX:0834-25-2939

